

第2回「あおもり家庭教育アドバイザー養成講座」

東青地区：7月 7日（水）県総合社会教育センター 受講者11名

三八地区：7月14日（水）八戸市視聴覚センター児童科学館 受講者9名

第2回は子育てを頑張る親御さんの気持ちを理解するための学び、また家庭教育支援のためのテキスト「あおもり親楽プログラム」の活用について演習を行いました。

午前：講義「子どもをもつ親の心」

講師 青森県八戸児童相談所 こども相談第二課 課長 やまだ のりこ 山田 憲子 氏

【講義要旨】

- ・ 児童相談所とは、児童福祉法第12条により設置が義務づけられている地方自治体の行政機関である。（県内6か所）
- ・ 主な機能と権限として、「市町村援助機能」、「相談機能」、「一時保護機能」、「措置機能」、「民法上の権限」がある。
- ・ 児童虐待の件数は年々増加している。虐待対応件数増加の背景には、通告義務の周知徹底による意識の高まりが一因と言われている。
- ・ アタッチメントの原則として、大人はいつも子どもの状態を気にかけて、その後ろを心配してついて回ったり、先回りしたりするのではなく、どっしりと構え、子どもが求めてきたときに「情緒的に利用可能」な存在であればいい。→「情緒的利用可能性」
- ・ それぞれの「感情」には役割があり、「感情」をもつことは悪いことではない。むしろ、たくさんの感情を知っていることで、相手のことを想像することができる。



「子どもをもつ親の心」と題し、ご講義いただきました。

はじめに、児童相談所についてご説明いただきました。児童相談所は、18歳未満の児童と家族を対象とし児童福祉が目的の相談援助機関であること、様々な機能の中で、相談機能が一番多く、相談の種類として養護相談、保健相談、障害相談、非行相談、育成相談があることなどお話しいただきました。その他、児童虐待の現状や児童相談所の関わり方についても伺うことができました。

次に、「感情や行動を子どもが自分自身でコントロールできるように大人が働きかけることが『しつけ』、子どもに対して大人が力で子ども

の行動をコントロールしようとするのが『虐待』である。」という前提の定義から、「感情」の役割についてお話しいただきました。ポジティブな感情にもネガティブな感情にもそれぞれ感情には役割があり、感情をもつことは悪いことではなく、そのもった感情をどう表現するかが大切であるということをお話しいただきました。

講義の最後は、「聴く」の漢字を示しながら、耳・目・心を十分に使って、子どもの話を丁寧に聞いて欲しいとお話になって講義は終了しました。



【受講者の声】

- ・ 見相の役割や持っている機能について、これまで漠然と知っていたつもりだったのが、より明確になり勉強になりました。相談を受けたときの寄り添い方など、少しずつ身につけていきたいと思います。
- ・ 今求められている家庭教育支援は、このような親の困り感に寄り添い、そして解決の糸口やヒントになるような言葉がけをどれだけしてあげられるかという部分なのかなと思いました。具体的に私たちができる可能性についての勉強もしたいです。
- ・ 自分が子どもや保護者と関わりを持ち支援する中で、感情を言葉に表現できるのはすごく大事だと思いました。話をする中で、相手が今どういう感情でいるのかを汲み取る力、これから鍛えていきたいと思いました。
- ・ 自分の中で一番の収穫は、児童相談所は「相談できる場所」だということです。「虐待」、「保護」という言葉が浮かんできて、「最終段階で連絡する場所」という自分の概念が「もっと身近なことで相談できる」「頼れる場所」に変わりました。

午後：演習「あおもり親楽プログラムⅠ」



あおもり親楽プログラムとは、子どもの理解や親子の関わり方等、子育てに必要なスキルについて、親同士が身近なエピソードやワークを通して話し合い、主体的に学ぶ「参加型の学習プログラム」です。本講座を規定数（4回）受講し終わると、「あおもり家庭教育アドバイザー」に申請、登録することができ、「あおもり親楽プログラム」を使った研修会での進行役を務めていただくことがあります。



今回は、進行する上でどのような注意が必要か、その都度ポイントを確認し、一受講者になったつもりで体験していただきながら、このプログラムの有効性を学ぶとともに、進行役としてのイメージをつかんでいただきました。第4回からの演習は、受講者に進行役を務めていただきます。今後の演習を通して、あおもり親楽プログラムの理解を深めていただくとともに、進行役としてのスキルも高めていただきたいと思います。

【受講者の声】

- ・ グループワークをすることにより、いろいろな考えや対応方法など多くのことを学ぶことができました。このような研修会を子育て中に受けていたらもっと子どもを理解してあげることができたと思ひ反省しきりです。
- ・ 考えを自分の言葉で伝え合い、他の人の話を聞くことができ、アドバイザー教育の一步を受容できました。楽しく受講できてよかったです。ありがとうございました。
- ・ 親楽プログラムは、「わかるわかる。」という共感が参加者に元気を与えることを体験しました。
- ・ 親楽プログラムの良さは、子育てをしているの悩みや困りは他の参加者の方々とも共通していると再確認することで、自分は1人で戦っているわけではないことや、自分の悩みや困りごとを乗り越えていくためのアイディアを得ることができること、そして一緒に親楽プログラムを体験したメンバーと一体感が持てることだと思います。
- ・ このプログラムには答えがなく、みんなで話すことで自分自身を振る返ることができるようになった気がします。1人じゃない、みんな同じ、という気持ちになりました。